



**Sun Ultra 27** ワークス  
テーション **Windows** オペ  
レーティングシステムインス  
トールガイド



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 821-0170-10  
2009年4月、Revision A

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。また、それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel Inside は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Microsoft は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Windows は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2009 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となる場合があります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Linker and Libraries Guide

Part No: 817-1984-18

Revision A

# 目次

---

はじめに .....	5
<b>1 開始する前に .....</b>	<b>9</b>
Windows Server のインストール .....	9
インストールに関する重要な考慮事項 .....	10
サポートされている Windows オペレーティングシステム .....	11
手動インストール .....	11
ワークステーションへの Windows イメージの配布 .....	12
<b>2 ドライバパッケージのダウンロード .....</b>	<b>13</b>
ドライバのダウンロード .....	13
▼ ドライバをダウンロードする .....	13
<b>3 外部ストレージドライバの配布の準備 (Windows Vista Ultimate の場合のみ) .....</b>	<b>15</b>
外部ストレージドライバの配布方法の選択 .....	15
外部ストレージドライバディスクの作成 .....	16
▼ 外部ストレージドライバディスクを作成する (フロッピーまたはフロッピー以外のメディア) .....	16
<b>4 オペレーティングシステム用のディスクの準備 .....</b>	<b>19</b>
診断パーティションを削除せずにプリインストールされたパーティションを削除する .....	19
▼ プリインストールされたパーティションを削除する .....	20
Intel AHCI SATA または RAID 用のシステム BIOS およびディスクの設定 .....	20
▼ Intel SATA または RAID 用にシステム BIOS およびディスクを設定する .....	21
オプションの Sun StorageTek PCIe SAS 4 ポート内部 HBA を使用した RAID 用ディスクの設定 .....	23

▼ RAID 用のディスクを設定する .....	23
追加情報 .....	24
<b>5 Windows Vista Ultimate のインストール .....</b>	<b>25</b>
インストール要件 .....	25
オペレーティングシステムのインストール .....	25
▼ オペレーティングシステムをインストールする .....	26
<b>6 Windows Server 2008 のインストール .....</b>	<b>33</b>
インストール要件 .....	33
オペレーティングシステムのインストール .....	33
▼ オペレーティングシステムをインストールする .....	33
<b>7 重要なドライバおよびソフトウェアの更新 .....</b>	<b>39</b>
ワークステーションのドライバの更新 .....	39
▼ Tools and Drivers のインストールウィザードを使用してワークステーションのド ライバをインストールする .....	41
▼ ワークステーションのドライバを手動でインストールする .....	41
追加ソフトウェアのインストール .....	44
▼ Sun 追加ソフトウェアをインストールする .....	44
追加ソフトウェアを使用したワークステーションの管理 .....	45
StorageTek MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理 .....	45
Intel ASF を使用した ワークステーションの管理 .....	45
<b>8 WIM イメージへの Sun Ultra 27 ワークステーションドライバの組み込み .....</b>	<b>47</b>
必要なドライバの特定 .....	47
WIM イメージへのドライバの追加 .....	48
作業を開始する前に .....	48
索引 .....	53

# はじめに

---

このドキュメントでは、Sun Ultra™ 27 ワークステーションに Microsoft Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

## 関連マニュアル

Sun Ultra 27 ワークステーションのドキュメントセットは、次のサイトの参照場所に記載されています。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/ultra27.ws#hic>

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトで簡体字中国語、日本語、フランス語、ドイツ語、およびスペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

すべての Sun 製ハードウェア、およびその他のドキュメントについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com>

## 関連するサードパーティーの Web サイト

このドキュメントには、追加の関連情報を提供するために、サードパーティーの URL も記載されています。

---

注 - このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<b>AaBbCc123</b>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system%<b>su</b></code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code>  <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## 一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントをお寄せいただくには、<http://docs.sun.com> にアクセスして「フィードバック (Feedback)」をクリックしてください。



# 開始する前に

---

この章では、Sun Ultra 27 ワークステーションに Microsoft Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする前に必要となる重要なガイドラインおよび情報を提供します。

この章は、次の節で構成されています。

- 9 ページの「Windows Server のインストール」
- 10 ページの「インストールに関する重要な考慮事項」
- 11 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」
- 11 ページの「手動インストール」
- 12 ページの「ワークステーションへの Windows イメージの配布」

## Windows Server のインストール

このドキュメントの以降の章では、Microsoft Windows Vista Ultimate および Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。このインストール手順は、32 ビットと 64 ビットの両方のバージョンの Windows Vista Ultimate と Windows Server 2008 で実行できます。

Windows Vista Ultimate をインストールする場合、外部ストレージドライバは Windows Vista Ultimate 配布メディアに含まれていません。Windows Server 2008 をインストールする場合、必要な外部ストレージドライバは Windows Server 2008 配布メディアに含まれています。

## インストールに関する重要な考慮事項

Sun ワークステーションに接続された外部ストレージへの Windows Server オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次に示す重要な考慮事項を確認してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、ブートドライブのすべてのデータが上書きされます。
- 外部ストレージに接続された、システムボード上の Intel® ICH10R AHCI SATA ディスク制御装置を使用してブートドライブを RAID 構成に含める場合、まず最初に、(ブート時に F2 キーを押してアクセスできる) システム BIOS 設定ユーティリティを使用して「RAID」に対するシステムの SATA 構成設定を設定します。次に、Windows オペレーティングシステムをインストールする前に、(ワークステーションのブート時に Ctrl キーを押しながら I キーを押してアクセスできる) Intel Matrix Storage Manager option ROM ユティリティを使用して RAID ボリュームを設定します。
- オプションの Sun StorageTek™ PCIe SAS 4 ポート内部 HBA (SGXPCIE4SAS3-Z、LSI ベース) を外部ストレージに接続し、ブートドライブを RAID 構成に含める場合、Windows オペレーティングシステムをインストールする前に (ワークステーションのブート時に Ctrl キーを押しながら C キーを押してアクセスできる) 制御装置の BIOS 設定ユーティリティを使用して RAID ボリュームを設定します。

---

注-追加ハードウェアに必要な設定がある場合、オペレーティングシステムをインストールする前にハードウェアをインストールしてください。また、ワークステーションの BIOS 設定プログラムでブートデバイスの優先順位を設定する必要があります。

---

- オペレーティングシステムをインストールする際の第一の考慮事項は、外部ストレージドライバをディスク制御装置に提供することです。Windows Vista Ultimate には、使用しているワークステーションに必要な外部ストレージドライバが含まれません。外部ストレージドライバは、フロッピーディスク、USB フラッシュディスク、または CD/DVD で配布できます。
- 『Sun Ultra 27 ワークステーションご使用にあたって』の該当する節を確認して、使用しているワークステーションおよびインストールする Windows のバージョンに既知の問題がないかどうかを調べてください。

このドキュメントに記載されているインストール手順に従うと、外部ストレージドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

## サポートされている Windows オペレーティングシステム

このドキュメントの発行時点で、Sun Ultra 27 ワークステーションは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Vista、Ultimate (32 ビットまたは 64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2008、Standard Edition (32 ビットまたは 64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの更新リストは、Sun Ultra 27 ワークステーションの次の製品ページにあります。

<http://www.sun.com/desktop/index.jsp>

## 手動インストール

この節では、Microsoft Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 をワークステーションにローカルに手動インストールするために必要な手順について概説します。

---

注 - Windows 展開サービスサーバーを使用してワークステーションに Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 をインストールする場合、第 8 章「WIM イメージへの Sun Ultra 27 ワークステーションドライバの組み込み」を参照してください。

---

CD メディアからワークステーションに Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 をインストールする場合は、次の手順を完全に実行します。

1. ドライバパッケージをダウンロードします (第 2 章「ドライバパッケージのダウンロード」)。
2. Windows Vista Ultimate のインストールに使用する、外部ストレージドライバのメディアを準備します (第 3 章「外部ストレージドライバの配布の準備 (Windows Vista Ultimate の場合のみ)」を参照)。
3. Windows のインストールに使用する、ワークステーションの内部記憶装置を準備します (第 4 章「オペレーティングシステム用のディスクの準備」を参照)。
4. Windows をインストールします (第 5 章「Windows Vista Ultimate のインストール」または第 6 章「Windows Server 2008 のインストール」を参照)。
5. ワークステーションの重要なドライバを更新します (第 7 章「重要なドライバおよびソフトウェアの更新」を参照)。

この手順を完了すると、Windows オペレーティングシステムを正常にインストールできているはずですが。

## ワークステーションへの **Windows** イメージの配布

Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) サーバーを使用してワークステーションに Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 を配布する場合、使用しているワークステーションに必要なドライバを含む WIM イメージを作成してマウントする方法については第 8 章「[WIM イメージへの Sun Ultra 27 ワークステーションドライバの組み込み](#)」を参照してください。

## ドライバパッケージのダウンロード

---

この章では、Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 のインストールに必要な、ワークステーション固有のドライバパッケージをダウンロードする方法について説明します。

---

注 - 最新の Tools and Drivers DVD がある場合、次の章に進むことができます。Tools and Drivers DVD が最新バージョンであることを確認するには、次の手順で示すように、Sun のダウンロードサイトでダウンロード可能なイメージを確認してください。

---

### ドライバのダウンロード

Sun のソフトウェアダウンロードサイトから、必要な Windows 外部ストレージドライバおよび任意のソフトウェア、または Tools and Drivers の完全な DVD イメージをダウンロードします。

#### ▼ ドライバをダウンロードする

- 1 使用しているワークステーションのドライバダウンロードサイトに移動します。  
<http://www.sun.com/download/index.jsp>  
「カテゴリ別表示 (View by Category)」、**「x64 サーバーおよびワークステーション (x64 Servers & Workstations)」**の順に選択し、製品リストから Ultra 27 を選択します。
- 2 以下のいずれかのダウンロードオプションを選択します。
  - **Windows** のインストールに必須のネットワークドライバおよび外部ストレージドライバだけがが必要な場合は、Windows.zip をハードディスクにダウンロードします。

- すべてのドライバと、使用しているサーバーでサポートされるすべてのソフトウェアが必要な場合、**Tools and Drivers** の ISO イメージをダウンロードします。書き込み可能な CD/DVD ドライブを搭載したシステムで ISO イメージを使用して、インストール時にアクセス可能な DVD を作成できます。
- 3 オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。次のいずれかの手順を実行します。
- **Windows Vista Ultimate** をインストールする場合は、[第3章「外部ストレージドライバの配布の準備 \(Windows Vista Ultimate の場合のみ\)」](#)に進みます。
  - **Windows Server 2008** をインストールする場合は、[第4章「オペレーティングシステム用のディスクの準備」](#)に進みます。

## 外部ストレージドライバの配布の準備 (Windows Vista Ultimate の場合のみ)

---

この章では、Windows Vista Ultimate のインストールに必要な外部ストレージドライバのメディアを準備する手順を説明します。

---

注 - Windows Server 2008 の場合、Sun Ultra 27 ワークステーションへの Windows のインストールに必要なすべてのドライバが Windows 配布メディアに含まれています。Windows Vista Ultimate をインストールする場合は、次のいずれかの方法を使用して、インストール時に外部ストレージドライバを指定する必要があります。

---

この章は、次の節で構成されています。

- 15 ページの「外部ストレージドライバの配布方法の選択」
- 16 ページの「外部ストレージドライバディスクの作成」

### 外部ストレージドライバの配布方法の選択

環境要件に合った Windows Vista Ultimate インストール用の適切な外部ストレージドライバの配布方法を表 3-1 から選択します。選択した方法をメモしておいてください。

---

注 - Windows Server 2008 の場合、Sun Ultra 27 ワークステーションへの Windows のインストールに必要なすべてのドライバが Windows 配布メディアに含まれています。Windows Vista Ultimate をインストールする場合は、次のいずれかの方法を使用して、インストール時に外部ストレージドライバを指定する必要があります。

---

表 3-1 Windows Vista Ultimate 外部ストレージドライバの配布方法

大容量記憶装置ドライバの配布方法	その他の要件
ローカルのフロッピーディスク: ワークステーションの USB ポートに外部接続された物理 USB フロッピードライブを使用します。ハブに接続しないでください。インストールに失敗する可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows」<sup>1</sup>と記載されている外部 USB フロッピードライブ (<a href="http://www.windowsservercatalog.com/marketplace/">http://www.windowsservercatalog.com/marketplace/</a>)</li> <li>■ フロッピーディスク</li> </ul>
フロッピー以外のメディア: ワークステーションに挿入された USB フラッシュディスクまたは CD/DVD メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CD/DVD または USB フラッシュドライブメディア</li> </ul>

<sup>1</sup> Windows 専用の USB フロッピードライブを使用しないと、OS のインストール時にドライバがインストールされたように見えても、システムのリポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライバを再度見つけることができず、エラーメッセージが表示されてインストールに失敗します。

## 外部ストレージドライバディスクの作成

ローカルのフロッピーディスクまたはフロッピー以外のメディアの配布方法の場合、Windows Vista Ultimate のインストールを進める前に外部ストレージドライバが含まれる適切なメディアを準備します。

次のシステム構成および素材が使用できる状態にしてください。

- ローカルのフロッピーディスクの方法の場合、空のフロッピーディスクと、USB フロッピードライブが接続された Windows システムが必要です。
- フロッピー以外のメディアの方法の場合、Windows システムの USB ポートに接続された USB フラッシュディスク、または Windows システムに接続された書き込み可能な CD/DVD ドライブが必要です。
- Sun のダウンロードサイトからダウンロードした最新の Windows.zip ファイル (詳細は、第 2 章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照)。  
—または—
- 使用しているワークステーション用の最新の Tools and Drivers DVD (詳細は、第 2 章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照)。

### ▼ 外部ストレージドライバディスクを作成する (フロッピーまたはフロッピー以外のメディア)

Sun では、Windows Vista Ultimate のインストールに必要な外部ストレージドライバディスクの手動作成に必要なファイルを用意しています。

- 1 Sunのダウンロードサイトからwindows.zipをダウンロードした場合(第2章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照)、手順2に進みます。  
—または—  
Tools and Drivers DVDを、CD/DVDドライブを搭載したWindowsシステムに挿入します。CDが自動で起動します。メインメニューで、「終了(Exit)」ボタンをクリックします。次の補足手順に従います。
  - a. エクスプローラを起動し、Tools and Drivers DVDに移動します。
  - b. ドライバのフォルダをダブルクリックして開きます。
  - c. 手順9にスキップします。
- 2 Microsoft Windowsを実行している、フロッピードライブを搭載したシステムで、windows.zipファイルを一時ディレクトリにコピーします。
- 3 Windows エクスプローラを起動します。
- 4 ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
- 5 windows.zipを選択します。
- 6 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

---

注-使用中のバージョンのWindows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティーのユーティリティを使用してzipファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

---

- 7 ファイルを新しい(空の)フォルダに展開します。
- 8 Windows エクスプローラを起動し、展開したファイルが入ったフォルダに移動します。
- 9 windows フォルダをダブルクリックして開きます。
- 10 オプションのSun StorageTek SAS PCIe 4ポート内部HBAを使用している場合、SASフォルダをダブルクリックして開き、手順11にスキップします。  
—または—  
ACHI10ディスク制御装置を使用している場合、次の補足手順に従います。
  - a. Windows タスクバーの「スタート」ボタンをクリックします。
  - b. 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

- c. 「名前」フィールドに次のコマンドを入力します。

```
drivename:\source_path\windows\sata\setup.exe -a -pc:\ destination_path
```

---

注 -p フラグのフラグと引数の間に空白を入れないでください。

---

*drivename* は設定ファイルが存在するドライブ文字で、*source\_path* は設定ファイルのパス、*c:\destination\_path* はファイルの展開先です。

---

- d. コマンドを実行すると、インストールプログラムが起動します。クリックしてプロンプトを進めます。

これによりドライバがインストールされるわけではありませんが、ドライバファイルが指定した *destination\_path* にコピーされます。

---

注 -p フラグを指定しない場合、ファイルは *c:\Program Files\Intel\Intel Matrix Storage Manager* に展開されます。

---

- e. **Windows** エクスプローラを起動し、展開したファイルが入ったフォルダに移動します。
- 11 インストールに一致する **Windows** バージョンフォルダ (32 ビットまたは 64 ビットの **Windows**) をダブルクリックします。
- 12 次のいずれかの手順を実行します。
- 空の **CD/DVD** を、システムの **USB CD/DVD** ドライブ (**CD/DVD** に書き込み可能なドライブ) に挿入します。
  - 空のフォーマット済み **USB** フラッシュディスクを、システムの **USB** ポートに挿入します。
  - 空のフォーマット済みフロッピーディスクを、システムに接続された **USB** フロッピードライブに挿入します。
- 13 フォルダ内のすべてのファイルをディスクにコピーします。
- 14 [第4章「オペレーティングシステム用のディスクの準備」](#)に進みます。

## オペレーティングシステム用のディスクの準備

---

Windows でアクセスできるディスクを準備するには、使用しているディスク制御装置を設定する必要があります。使用しているワークステーションには、Intel Advanced Host Controller Interface (AHCI)、統合ディスク制御装置、またはオプションの Sun StorageTek PCIe SAS 4 ポート内部 HBA が用意されています。完了する必要がある作業を次に示します。ニーズにもっとも合う手順を実行してください。

- 必要に応じて、プリインストールされた Solaris パーティションを削除してブートディスクを準備します。19 ページの「[診断パーティションを削除せずにプリインストールされたパーティションを削除する](#)」を参照してください。
- Intel AHCI 統合ディスク制御装置を使用する場合、AHCI または RAID 用にシステム BIOS を設定する必要があります。RAID 用に設定する場合、RAID ボリュームを設定する必要があります。20 ページの「[Intel AHCI SATA または RAID 用のシステム BIOS およびディスクの設定](#)」を参照してください。
- Sun StorageTek PCIe SAS 4 チャンネルホストバスアダプタ (LSI ベース) を使用してブートディスクを RAID に含める場合、RAID ボリュームを設定する必要があります。23 ページの「[オプションの Sun StorageTek PCIe SAS 4 ポート内部 HBA を使用した RAID 用ディスクの設定](#)」を参照してください。
- ディスクの設定および管理の詳細については、24 ページの「[追加情報](#)」を参照してください。

### 診断パーティションを削除せずにプリインストールされたパーティションを削除する

使用しているワークステーションの Tools and Drivers DVD には、診断 (システムテスト) ソフトウェアが収録されています。診断テストスクリプトをログファイルに書き込むには、診断パーティションが必要です。診断パーティションが存在しないと、出力結果は診断画面にしか表示されません。診断パーティションは、Sun Ultra 27 ワークステーションにインストール済みです。診断パーティションは、削除して

いない限り、再インストールする必要はありません。診断ソフトウェアの使用手順については、『Sun Ultra 27 Workstation Service Manual』を参照してください。

診断パーティションを削除した場合、Tools and Drivers DVD の「診断パーティションの作成 (Create Diagnostic Partition)」オプションを使用して再作成できます。手順については、『Sun Ultra 27 Workstation Service Manual』を参照してください。

診断パーティションを除き、ブートハードドライブ上のすべてのパーティションを消去するには、Tools and Drivers DVD のメインメニューにある「主起動ハードディスクの消去 (Erase Primary Boot Hard Disk)」オプションを使用します。

## ▼ プリインストールされたパーティションを削除する

「主起動ハードディスクの消去 (Erase Primary Boot Hard Disk)」オプションを使用すると、診断パーティションを除き、ハードドライブ上のパーティションおよびユーザーデータがすべて消去されます。



注意-保存が必要なデータがハードドライブ上にある場合は、この操作を行う前に必ずバックアップしてください。

---

- 1 システムに **Tools and Drivers DVD** を挿入します。
- 2 メインメニューが表示されたら、**Tools and Drivers DVD** のメインメニューから「主起動ハードディスクの消去 (Erase Primary Boot Hard Disk)」オプションを選択します。  
このオプションを選択すると、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのまま残ります。
- 3 プロンプトが表示されたら、パーティションを削除することを確認します。
- 4 プロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押してシステムを再起動します。

## Intel AHCI SATA または RAID 用のシステム BIOS およびディスクの設定

ワークステーションの Intel AHCI 統合ディスク制御装置を使用する場合、Windows をインストールする前に AHCI または Intel RAID 用の SATA ディスクを設定します。SATA ディスクを搭載したシステムでこの作業を実行するには、Windows からディスクにアクセスする必要があります。

## ▼ Intel SATA または RAID 用にシステム BIOS およびディスクを設定する

- 1 システムの電源を入れます。
- 2 Sun ロゴ画面で F2 キーを押して「BIOS の設定 (BIOS Setup)」メニューに進みます。
- 3 BIOS ユーティリティーのダイアログで、「詳細 (Advanced)」、「IDE の構成 (IDE Configuration)」の順に選択します。  
「IDE の構成 (IDE Configuration)」メニューが表示されます。
- 4 「IDE の構成 (IDE Configuration)」メニューで、「SATA の構成 (Configure SATA as)」を選択して Enter キーを押します。  
SATA のオプションを表示するメニューが開きます。
- 5 「SATA のオプション (SATA Options)」メニューで、次のいずれかを選択します。
  - AHCI (RAID ではない SATA ディスクを使用するシステムの場合)
  - RAID (Intel Matrix RAID を作成する場合)
- 6 F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS ユーティリティーを閉じて、サーバーを再起動します。その後、次のいずれかの手順を実行します。
  - ブートディスクを RAID に含めない場合は、オペレーティングシステムのインストールに進みます (第 5 章「Windows Vista Ultimate のインストール」または第 6 章「Windows Server 2008 のインストール」を参照)。
  - ブートディスクを RAID に含める場合は、次のステップに進みます。
- 7 ブートディスクを RAID に含めるには、ブート時にプロンプトが表示されたときに Ctrl キーを押しながら I キーを押し、Intel Matrix Storage Manager option ROM ユーティリティーに進みます。  
Intel Matrix Storage Manager のメインメニューが表示されます。
- 8 メインメニューで、「1. Create RAID Volume」メニューオプションを選択します。  
「RAID ボリュームの作成 (Create RAID Volume)」メニューが表示されます。
- 9 「RAID ボリュームの作成 (Create RAID Volume)」メニューで、次の手順を実行します。
  - a. RAID ボリュームの名前を指定して Enter キーを押すか、デフォルトを受け入れて Enter キーを押します。

- b. RAID レベル (0、1、5、10) を選択し、**Enter** キーを押します。  
上下矢印キーを使用して、使用可能な RAID レベルの値をスクロールします。

---

注 - RAID 0 には耐障害性がありません。

---

- c. アレイのディスクを選択します。
- d. プロンプトが表示されたら、ストライプサイズを選択して **Enter** キーを押すか、デフォルト (128KB) を受け入れて **Enter** キーを押します。
- e. ボリューム容量を指定して **Enter** キーを押すか、デフォルト (選択したディスクの合計サイズ) を受け入れて **Enter** キーを押します。
- f. 「ボリュームの作成 (Create Volume)」を選択し、**Enter** キーを押します。  
すべてのデータが失われる可能性があることを示す、次の警告メッセージが表示されます。  
  
Are you sure you want to create this volume? Y or N.
- g. **Y** キーを押してボリュームの作成を確認します。  
新しい RAID ボリュームが作成されます。RAID ボリュームに関する情報が表示されます (RAID の ID、ボリューム名、レベル、ステータスなど)。
- 10 「終了 (EXIT)」を選択して **Enter** キーを押し、**Intel Matrix Storage Manager** ユーティリティを終了します。  
Intel Matrix Storage Manager ユーティリティを終了することを確認する確認メッセージが表示されます。
- 11 **Y** キーを押し、終了を確認します。
- 12 RAID ボリューム上にパーティションを作成するには、ワークステーションの CD/DVD ドライブに **Tools and Drivers DVD** を挿入します。
- 13 システムを再起動します。
- 14 **Tools and Drivers DVD** がブートされます。メインメニューで、「4. Exit to DOS」を選択します。
- 15 DOS プロンプトで、次のコマンドを入力します。  
**fdisk**
- 16 ハードディスクのセクター 0 にブートセクター ID がないことを示すプロンプトが表示された場合は、**Y** キーを押してディスクを初期化します。

- 17 次のいずれかの手順を実行します。
  - Windows Vista Ultimate のインストールを開始する場合は、第 5 章「Windows Vista Ultimate のインストール」に進みます。
  - Windows Server 2008 のインストールを開始する場合は、第 6 章「Windows Server 2008 のインストール」に進みます。

## オプションの Sun StorageTek PCIe SAS 4 ポート内部 HBA を使用した RAID 用ディスクの設定

オプションの StorageTek PCIe 4 ポートホストバスアダプタを使用してブートディスクを RAID に含める場合、Windows をインストールする前にディスク制御装置の BIOS の設定情報を設定する必要があります。

### ▼ RAID 用のディスクを設定する

- 1 システムの電源を入れます。
- 2 POST 中に、LSI 設定ユーティリティを開始するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら **Ctrl** キーを押しながらか **C** キーを押します。
- 3 「アダプタの一覧 (Adapter List)」画面で矢印キーを使用してアダプタを選択し、**Enter** キーを押します。  
アダプタプロパティの画面が表示されます。
- 4 「RAID」プロパティを選択します。
- 5 IM (Integrated Mirror、統合ミラー—RAID 1) または IME (Integrated Mirror Enhanced、統合ミラー拡張—RAID 1E) のボリュームタイプを選択します。
- 6 RAID に含めるボリュームを選択します。

---

注 - SAS ボリュームと SATA ボリュームを RAID 内に混在させないでください。

---

- 7 アレイが設定されたら、変更内容を保存して終了します。

---

注-IM アレイとIME RAID アレイを作成すると、自動リセットが実行され、キャッシュへの書き込み機能が有効になります。

---

- 8 次のいずれかの手順を実行します。
  - **Windows Vista Ultimate** のインストールを開始する場合は、**第5章「Windows Vista Ultimate のインストール」**に進みます。
  - **Windows Server 2008** のインストールを開始する場合は、**第6章「Windows Server 2008 のインストール」**に進みます。

## 追加情報

ディスク制御装置のソリューションを使用する方法については、Sun ドキュメントの Web サイトで次に示すドキュメントを参照してください。

- Sun StorageTek PCIe SAS 4 チャンネル HBA については、『Sun LSI 106x BIOS RAID User's Guide』(820-4933)を参照してください。このドキュメントを入手するには、次のサイトに移動します。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/sf-hba-lsi>
- Intel ICH10R 統合ディスク制御装置については、『Sun Ultra 27 Workstation Service Manual』(820-6776)を参照してください。

---

注-ワークステーションの BIOS 設定ユーティリティを使用する方法については、『Sun Ultra 27 Workstation Service Manual』(820-6776)を参照してください。

---

## Windows Vista Ultimate のインストール

---

この章では、Windows Vista Ultimate オペレーティングシステムを Sun Ultra 27 ワークステーションにインストールする方法について説明します。

### インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の点を確認します。

- ワークステーション用の最新のソフトウェアをダウンロードした。第2章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照してください。
- オペレーティングシステムのインストールプロセスで使用する外部ストレージドライブメディアを作成した。第3章「外部ストレージドライブの配布の準備 (Windows Vista Ultimate の場合のみ)」を参照してください。
- 第4章「オペレーティングシステム用のディスクの準備」の説明に従って、システム BIOS を設定してディスクを準備した。

---

注 - Microsoft Windows Vista Ultimate の全インストールプロセスについては、この節では説明していません。この節では、Sun ワークステーションに Windows Vista Ultimate をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

---

### オペレーティングシステムのインストール



---

注意 - Windows のインストールにより、ブートディスクとして指定したドライブがフォーマットされます。そのディスク上の既存のデータはすべて失われます。

---

## ▼ オペレーティングシステムをインストールする

- 1 25 ページの「インストール要件」のすべての要件を満たしていることを確認します。
- 2 ワークステーションの電源を切ってすぐに入れ直します。  
BIOS POST プロセスが開始されます。
- 3 BIOS POST 画面に Press F8 for BBS POPUP プロンプトが表示されたら F8 を押します (図 5-1 を参照)。  
BBS POPUP メニューでブートデバイスを選択できます。

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

図 5-1 F8 BBS POPUP プロンプトの例

- 4 BIOS POST プロセスが完了すると、「起動デバイス (Boot Device)」メニューが表示されます (図 5-2 を参照)。Windows メディア CD をサーバーの DVD ドライブに挿入します。



図 5-2 「起動デバイス (Boot Device)」メニューの例

- 5 「起動デバイス (Boot Device)」メニューから DVD/CD-ROM ドライブまたは CD イメージを選択し、Enter キーを押します。

「CD からブートするにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

- 「インストールの種類 (Installation Type)」ページが表示されるまで(図 5-3 を参照) インストールウィザードを進め、「カスタム (詳細) (Custom (advanced))」をクリックします。

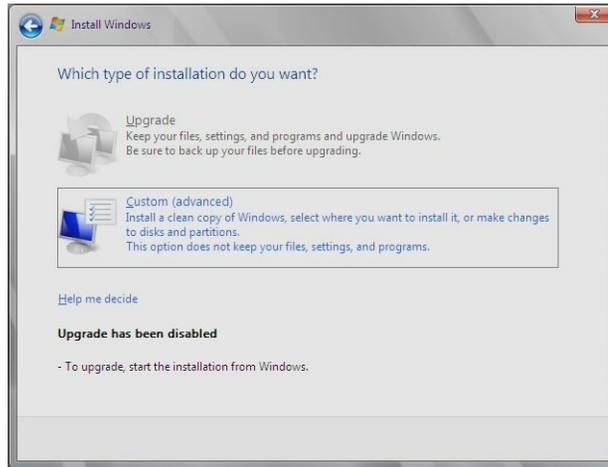


図 5-3 インストールの種類を選択ページ

- 図 5-4 に示すように、「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」ページで、「ドライバの読み込み (Load Driver)」オプションをクリックします。

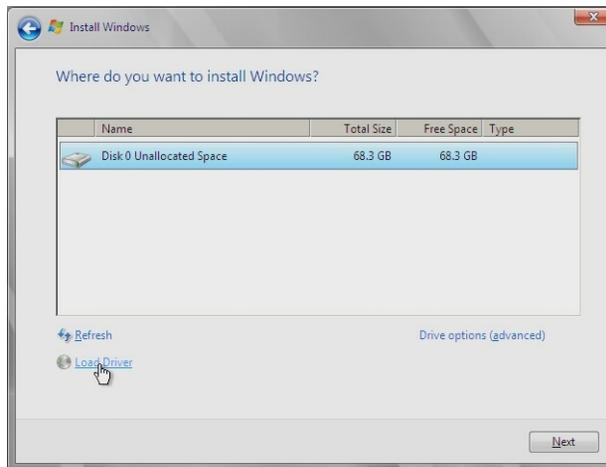


図 5-4 Windows をインストールする場所のページの例

「ドライバの読み込み (Load Driver)」ページが表示されます。

- 8 「ドライバの読み込み (Load Driver)」ページ(図 5-5を参照)で、「OK」をクリックします。

ワークステーションから、作成した外部ストレージドライバメディア(フロッピー、USB フラッシュディスク、または CD/DVD)上の外部ストレージドライバにアクセス可能であることを確認します。

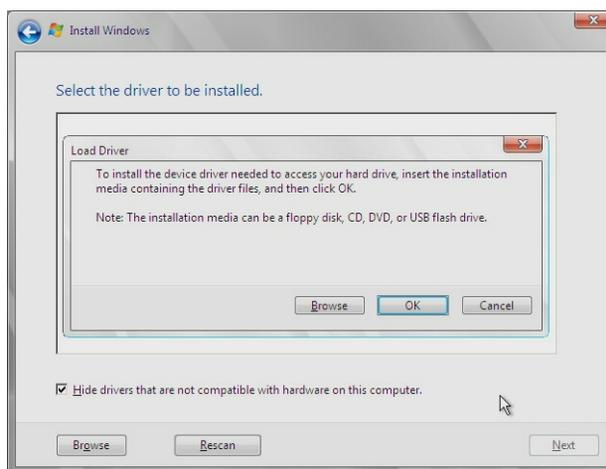


図 5-5 ドライバメディアの参照

- 9 「参照(Browse)」ボタンをクリックし、ドライバメディアフォルダに移動します(図 5-6 を参照)。

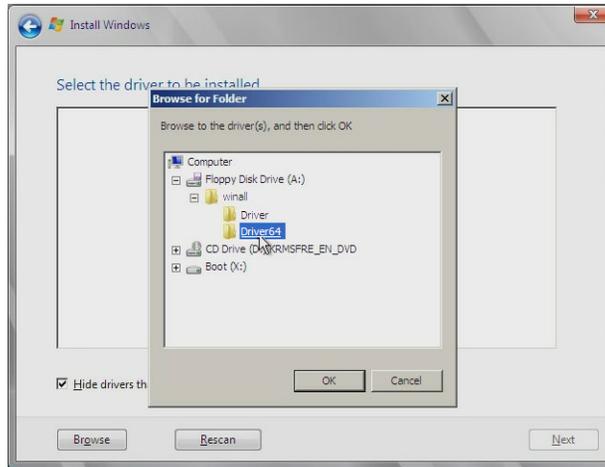


図 5-6 フォルダの参照画面の例

- 10 次のうち、該当する外部ストレージドライバを選択し(32ビットまたは64ビットバージョン)、「OK」をクリックします。
- SATA の場合は「Intel ICH10 SATA AHCI Controller」
  - RAID の場合は「Intel ICH10 SATA RAID Controller」
  - オプションの Sun StorageTek HBA の場合は、「LSI Adapter, SAS 3000 Series, 4-port with 1064E」
- 「ドライバの選択(Driver Selection)」ページが表示され、選択したドライバが示されます(図 5-7 を参照)。
- 11 適切なドライバが選択されていることを確認し、「次へ(Next)」をクリックします。

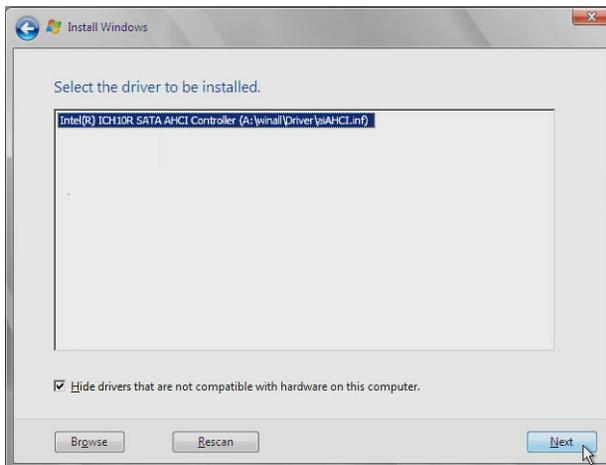


図 5-7 選択されたドライバページの例

「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」ページが表示されます。

- 12 「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」ページ (図 5-8 を参照) で、次のいずれかの手順に従います。
  - Windows のデフォルトのパーティション情報を上書きしない場合、「次へ (Next)」をクリックして手順 14 にスキップします。
  - Windows のデフォルトパーティション情報を上書きする場合、「ドライバオプション (上級) (Driver Options (advanced))」オプションをクリックして次の手順に進みます。



注意 - 既存のパーティションをフォーマットまたは再パーティション化すると、パーティション上のすべてのデータが失われます。

- 13 ドライバオプションが表示された「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」ページ (図 5-8 を参照) で、次のいずれかの手順に従います。

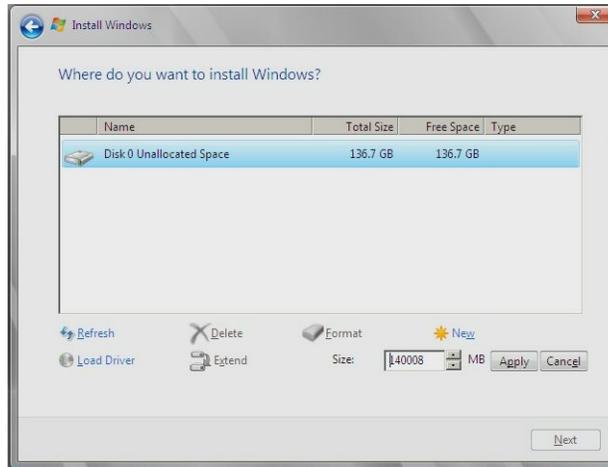


図 5-8 パーティション情報の変更

- a. 「削除 (Delete)」をクリックして既存のパーティションを削除します。
  - b. 「新規作成 (New)」をクリックして新しいパーティションを作成します。
  - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「適用 (Apply)」をクリックします。
  - d. 「Next (次へ)」をクリックします。
- 14 **Windows** のインストールが開始されます。  
インストールプロセスでは、システムが複数回再起動します。
- 15 **Windows** のインストールが完了すると、**Windows** が起動し、ユーザーパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。「OK」をクリックし、初期ユーザーログインアカウントの設定に進みます。  
初期ユーザーアカウントを作成すると、Windows Vista Ultimate デスクトップが表示されます。
- 16 終了したら、第7章「重要なドライバおよびソフトウェアの更新」に進みます。



## Windows Server 2008 のインストール

---

この章では、Windows Server 2008 のメディアを使用して、サーバーに直接 Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

### インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の点を確認します。

- ワークステーション用の最新のソフトウェアをダウンロードした。第2章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照してください。
- 第4章「オペレーティングシステム用のディスクの準備」の説明に従って、システム BIOS を設定してディスクを準備した。

---

注 - Microsoft Windows Server 2008 の全インストールプロセスについては、この節では説明していません。この節では、ワークステーションに Windows Server 2008 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

---

### オペレーティングシステムのインストール



---

注意 - Windows のインストールにより、ブートディスクとして指定したドライブがフォーマットされます。そのディスク上の既存のデータはすべて失われます。

---

#### ▼ オペレーティングシステムをインストールする

- 1 33 ページの「インストール要件」のすべての要件を満たしていることを確認します。

- 2 サーバーの電源を切ってすぐに入れ直します。  
BIOS POST プロセスが開始されます。
- 3 BIOS POST 画面に Press F8 for BBS POPUP プロンプトが表示されたら F8 を押します (図 6-1 を参照)。  
BBS POPUP メニューでブートデバイスを選択できます。

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

図 6-1 F8 BBS POPUP プロンプトの例

- 4 BIOS POST プロセスが完了すると、「起動デバイス (Boot Device)」メニューが表示されます (図 6-2 を参照)。Windows Server 2008 メディア DVD をサーバーの DVD ドライブに挿入します。



図 6-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニューの例

- 5 「起動デバイス (Boot Device)」メニューから CD/DVD を選択して、Enter を押します。  
「CD からブートするにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。
- 6 Windows インストールウィザードが起動します。「インストールの種類 (Installation Type)」ページが表示されるまでインストールウィザードを進め、「カスタム (詳細) (Custom (advanced))」をクリックします。

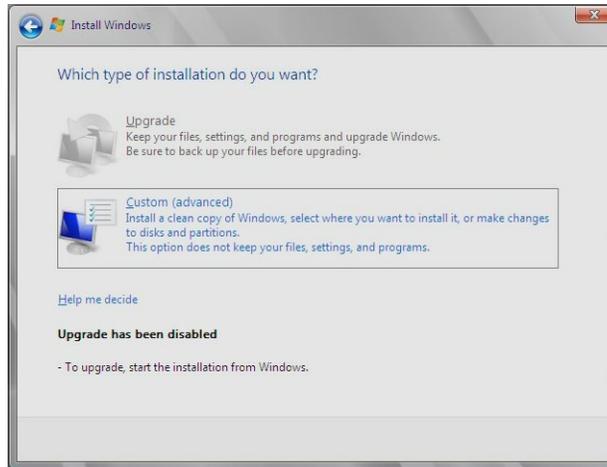


図 6-3 インストールの種類を選択ページ

- 7 「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」 ページ (図 6-4) が表示されたら、次のいずれかの手順に従います。

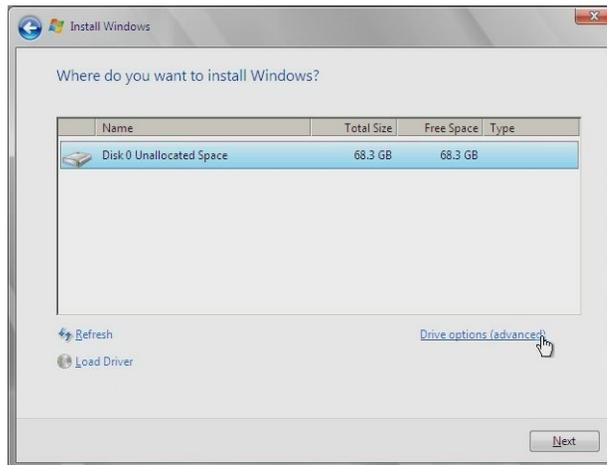


図 6-4 Windows をインストールする場所のページの例

- Windows のデフォルトのパーティション設定を上書きしない場合、「次へ (Next)」をクリックして手順 9 にスキップします。
- Windows のデフォルトパーティション設定を上書きする場合、「ドライバオプション (上級) (Driver Options (advanced))」をクリックして次の手順に進みます。



注意 - 既存のパーティションをフォーマットまたは再パーティション化すると、パーティション上のすべてのデータが失われます。

- 8 ドライブオプションが表示された「Windowsのインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows)」ページ(図 6-5 を参照)で、次の手順に従います。

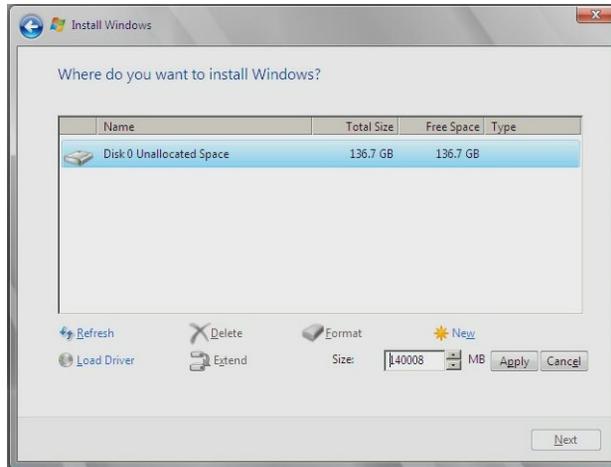


図 6-5 パーティション情報の変更

- a. 「削除 (Delete)」をクリックして既存のパーティションを削除します。
  - b. 「新規作成 (New)」をクリックして新しいパーティションを作成します。
  - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「適用 (Apply)」をクリックします。
  - d. 「Next (次へ)」をクリックします。
- 9 Windows のインストールが開始されます。  
インストールプロセスでは、サーバーが複数回再起動します。
  - 10 Windows のインストールが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。「OK」をクリックし、初期ユーザーアカウントの設定に進みます。

---

注 - Windows Server 2008 では、以前のバージョンの Windows よりも強力なパスワードスキームがユーザーアカウントに適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページの「アクセシビリティ (Accessibility)」リンクをクリックしてください。

---

初期ユーザーアカウントを作成すると、Windows Server 2008 デスクトップが表示されます。

- 11 終了したら、[第7章「重要なドライバおよびソフトウェアの更新」](#)に進みます。



# 重要なドライバおよびソフトウェアの更新

---

Windows の初期インストールのあと、システムが適切に動作するためには Windows の標準ドライバを Sun Ultra 27 ワークステーション固有のドライバで更新する必要があります。この章は、次の節で構成されています。

- 39 ページの「ワークステーションのドライバの更新」
- 44 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 45 ページの「追加ソフトウェアを使用したワークステーションの管理」

この章の手順では、次に示す作業が完了していることを前提とします。

- Microsoft Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールした。
- 使用しているワークステーション用の最新の Tools and Drivers DVD がある。  
—または—
- 第 3 章「外部ストレージドライバの配布の準備 (Windows Vista Ultimate の場合のみ)」で説明されている Window .zip をダウンロードした。

## ワークステーションのドライバの更新

オペレーティングシステムのインストール後に使用中のワークステーションにインストールが必要となるドライバは、Sun から入手できます。これらのドライバは、Tools and Drivers DVD に含まれています。また、Sun のソフトウェアダウンロードサイトからダウンロード可能な windows.zip ファイルにも含まれています。必要なドライバの説明については、次の表を参照してください。

表 7-1 Sun Ultra 27 の追加ドライバ

ドライバ	説明
チップセット	MBus、USB、PCI-Express root、Legacy PC (LPC) インタフェースコントローラなど、使用しているワークステーションのハードウェアをサポートするのに必要なドライバが含まれています。
ビデオ	NVIDIA Quadro FX (FX5800、FX3800、FX1800、または FX380) グラフィックアクセラレータをサポートします。
オーディオ	RealTek オーディオプロセッサをサポートします。
ネットワークインタフェース	Intel PRO/100、Intel PRO/1000、および Intel PRO/10GbE アダプタと統合ネットワーク接続をサポートします。
TPM	Infineon Trusted Platform Module (TPM) をサポートします。TPM とは、セキュリティを強化するために専用に設計されたオンボードコンポーネントです。キー操作やその他のセキュリティ上重要な作業を行うための保護された領域を提供します。TPM はハードウェアとソフトウェアの両方を使用して、脆弱な状態にある暗号化キーおよび署名キーを保護します。
Intel ME	Intel Management Engine Interface をサポートします。Intel ME ドライバを使用すると、Intel のハードウェア管理機能へのローカル OS アクセスがサポートされます。Intel Alert Standard Format (ASF) 管理ソリューションによってワークステーションを管理する場合、Intel ME ドライバをインストールします。ASF は、温度、電気、ファン、シャーシへの侵入など、センサーベースの重要な環境イベントに対するリモートアラートを提供します。また、無効なパスワード、システムハートビート、ブートエラーの通知など、オペレーティングシステム環境に依存しない追加のアラート機能も組み込みます。

ワークステーションのドライバを更新するには、次のいずれかの手順を実行します。

- 自動的にドライバをインストールするには、41 ページの「Tools and Drivers のインストールウィザードを使用してワークステーションのドライバをインストールする」を参照してください。
- 手動でドライバをインストールするには、41 ページの「ワークステーションのドライバを手動でインストールする」を参照してください。

## ▼ Tools and Drivers のインストールウィザードを使用してワークステーションのドライバをインストールする

- 1 システムに接続された外部 USB CD/DVD ドライブに、Tools and Drivers DVD を挿入します。CD が自動で起動します。

Tools and Drivers のメインメニューが表示されます (図 7-1 を参照)。



図 7-1 Tools and Drivers のメインメニュー

- 2 メインメニューで「ドライバのインストールと更新 (Install/Update Drivers)」をクリックします。

画面上の指示に従って、必要なドライバをインストールします。

## ▼ ワークステーションのドライバを手動でインストールする

- 1 次のいずれかの手順を実行します。
  - CD/DVD ドライブに Tools and Drivers DVD を挿入します。DVD が自動的に起動したら、メインメニューの終了アイコンをクリックします。Windows エクスプローラを使用して、drivers\windows フォルダに移動します。

- Sunのダウンロードサイトから windows.zip ファイルをダウンロードした場合 (第2章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照)、そのファイルをワークステーション上のフォルダに展開します。
- 2 次の手順に従って、チップセットドライバをインストールします。
    - a. **Windows** エクスプローラを使用して、windows\chipset ドライバフォルダに移動します。
    - b. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。  
画面上の指示に従って、チップセットドライバをインストールします。
  - 3 **Ethernet** ドライバをインストールするには、次のいずれかの手順を実行します。
    - **Windows** エクスプローラを使用して、windows\nic ドライバフォルダに移動します。 .exe 実行可能ファイルをダブルクリックします。  
画面上の指示に従って、Ethernet ドライバをインストールします。  
—または—
    - **Windows** のデバイスマネージャを使用してドライバをインストールします。
      - a. デバイスマネージャを開きます。
      - b. 黄色の感嘆符 (!) が付いている **NIC** を右クリックし、「ドライバの更新」を選択します。
      - c. 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。
      - d. 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。
      - e. 「参照」をクリックし、ワークステーションの適切な **Ethernet** ドライバフォルダに移動します。たとえば、次のように入力します。  
`windows\nic\pro1000`
      - f. **Ethernet** ドライバを更新します。
  - 4 次の手順に従って、**TPM** ドライバをインストールします。
    - a. **Windows** エクスプローラを使用して、windows\TPM\driver\app フォルダに移動します。

- b. .zip ファイルを展開します。
    - c. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックします。  
インストールウィザードに従って、TPM ドライバをインストールします。
  - 5 次の手順に従って、(Intel ASF 管理ソリューションの一部として使用する)Intel ME ドライバをインストールします。
    - a. Windows エクスプローラを使用して、windows\me\driver フォルダに移動します。
    - b. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックします。  
インストールウィザードに従って、Intel ME ドライバをインストールします。
  - 6 次の手順に従って、NVIDIA Quadro FX ビデオドライバをインストールします。
    - a. デバイスマネージャを開きます。
    - b. ディスプレイのドライバを右クリックして「ドライバの更新」を選択します。  
ハードウェアの更新ウィザードが表示されます。
    - c. 「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。
    - d. 次のダイアログボックスで、「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。
    - e. 「参照」をクリックし、windows\video\os\version フォルダ (os は Vista または 2008、version は 32 ビットまたは 64 ビット) に移動します。
    - f. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックします。  
インストールウィザードに従って、ビデオドライバをインストールします。
  - 7 次の手順に従って、RealTek HD オーディオドライバをインストールします。
    - a. Windows エクスプローラを使用して、windows\video\os フォルダ (os は Vista または 2008) に移動します。
    - b. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックします。  
インストールウィザードに従って、RealTek HD オーディオドライバをインストールします。
  - 8 ワークステーションを再起動します。

## 追加ソフトウェアのインストール

次に示す追加のソフトウェアコンポーネントは、Windows Vista Ultimate または Windows Server 2008 が実行されている Sun ワークステーションで使用できます。

- **Sun StorageTek MegaRAID Storage Manager**—オプションの StorageTek PCIe SAS 4 ポート HBA を使用して、Sun ワークステーション上の RAID を構成、管理、および監視できます。詳細は、[45 ページの「StorageTek MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理」](#)を参照してください。
- **Intel ASF Agent**—Intel の (Alert Standard Format) 管理ソリューションを使用してワークステーションを管理する場合、ASF エージェントソフトウェアをインストールする必要があります。また、[39 ページの「ワークステーションのドライバの更新」](#)で説明されている Intel ME ドライバもインストールします。

### ▼ Sun 追加ソフトウェアをインストールする

- 1 次のいずれかの手順を実行します。
  - **CD/DVD ドライブに Tools and Drivers DVD を挿入します。DVD が自動的に起動したら、メインメニューの終了アイコンをクリックします。Windows エクスプローラを使用して、drivers\windows フォルダに移動します。**
  - **Sun のダウンロードサイトから windows.zip ファイルをダウンロードした場合 (第2章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照)、そのファイルをワークステーション上のフォルダに展開します。**
- 2 次の手順に従って、**Sun StorageTek MegaRAID Storage Manager** ソフトウェアをインストールします。
  - a. **Windows エクスプローラを使用して、windows\SAS\MSM ドライバフォルダに移動します。**
  - b. **.exe 実行可能ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。**  
画面上の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。
- 3 **Intel ASF** を使用してワークステーションを管理する場合、次の手順に従って **Intel ASF** エージェントソフトウェアをインストールします。
  - a. **Windows エクスプローラを使用して、windows\me\ASF\version\agent ドライバフォルダ (version は 32 ビットまたは 64 ビットの Windows) に移動します。**

- b. .exe 実行可能ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。  
画面上の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。
- 4 インストールが完了したら、ワークステーションを再起動します。

## 追加ソフトウェアを使用したワークステーションの管理

このセクションでは、サーバー用 Sun 追加ソフトウェアの追加情報をリストします。この情報には以下のものが含まれます。

- 45 ページの「[StorageTek MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理](#)」
- 45 ページの「[Intel ASF を使用した ワークステーションの管理](#)」

### StorageTek MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理

MegaRAID Storage Manager (MSM) プログラムでは、システム上で LSI ベースの Integrated RAID コントローラ、物理ディスクドライブ、および仮想ディスクドライブを設定できます。MSM プログラムの設定ウィザードを使用すると、ストレージ構成を作成するためのいくつかの簡単な手順に従うだけで、ディスクグループおよび仮想ディスクドライブを容易に作成できます。

MSM は、オペレーティングシステム (Operating System、OS) の対応するライブラリおよびドライバと連動して、x64 サーバーに接続されたストレージ構成を設定、監視、および管理します。MSM GUI には、システム上のコントローラ、仮想ディスクドライブ、および物理ディスクドライブを表すアイコンによってデバイスステータスが表示されます。すぐに対処が必要なディスク障害などのイベントを通知する場合、画面上でデバイスアイコンの隣に専用のアイコンが表示されます。システムエラーおよびイベントは、イベントログファイルに記録されて画面上に表示されません。

MSM を使用方法については、次の Sun 製品ドキュメント用 Web サイトでサーバーの『Sun LSI 106x RAID User's Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/sf-hba-lsi>

### Intel ASF を使用したワークステーションの管理

Intel Alert Standard Format (ASF) は、モバイルシステム、デスクトップシステム、ワークステーションシステム、またはサーバープラットフォーム上に実装できる、標準ベースの警告および遠隔制御を提供します。ASF の警告機能および遠隔制

御機能はともにハードウェアベースであり、管理対象のシステムのネットワークソリューションに対してローカルです。これにより、ネットワークソリューションで CPU および OS に依存せずに、管理コンソールに持続的に接続できます。

ワークステーションに ASF エージェントをインストールすると、ASF 管理コンソールでワークステーションの Ethernet コントローラを使用してシステムの各種コンポーネント (マザーボード上の CPU、チップセット、BIOS、およびセンサー) から情報を収集し、管理コンソールを実行している遠隔サーバーに送信できます。ASF は、ワークステーションの状態、アセット管理、および遠隔制御を監視するツールとして使用します。

Intel ASF を使用してクライアントシステムを管理する方法については、次の Intel Web サイトを参照してください。

[http://www.intel.com/design/network/papers/ASF\\_whitepaper.htm](http://www.intel.com/design/network/papers/ASF_whitepaper.htm)

# WIM イメージへの Sun Ultra 27 ワークステーションドライバの組み込み

この章は、ワークステーション固有ドライバを Windows Imaging Format (WIM) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

WIM ファイルは、Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) を使用してインストールされます。

この章は、WDS のチュートリアルではありません。ワークステーション固有ドライバを WIM イメージに組み込む方法について紹介します。

- 47 ページの「必要なドライバの特定」
- 48 ページの「WIM イメージへのドライバの追加」

## 必要なドライバの特定

WIM イメージに組み込む必要があるワークステーション固有ドライバを、表 8-1 に示します。

表 8-1 WIM イメージに必要なワークステーション固有ドライバ

ドライバ/デバイス	Windows Vista Ultimate 用に組み込み		Windows Server 2008 用に組み込み	
	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット
Intel Pro/1000 P Ethernet ドライバ	はい	はい	はい	はい
Intel x58 チップセットドライバ	はい	はい	はい	はい
Infineon Trusted Platform Module ドライバ	はい	はい	はい	はい
ディスク制御装置ドライバ(該当するものを選択)				

表 8-1 WIM イメージに必要なワークステーション固有ドライバ (続き)

ドライバ/デバイス	Windows Vista Ultimate 用に組み込み		Windows Server 2008 用に組み込み	
	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット
■ Intel ICH10R AHCI SATA 統合ディスク制御装置	はい	はい	はい	はい
■ LSI Logic Fusion-MPT SAS RAID HBA	はい	はい	はい	はい
RealTek オーディオドライバ	はい	はい	いいえ	いいえ

## WIM イメージへのドライバの追加

この節では、Sun Ultra 27 ワークステーション用の Windows ドライバを WIM イメージに追加する方法について説明します。

### 作業を開始する前に

WIM イメージの作成前に、次のことを実行します。

- Windows 自動インストールキット (Windows Automated Installation Kit、Windows AIK または WAIK) をインストールします。このキットは、Microsoft からダウンロードできます。WAIK のバージョン 2.0 以降を使用することをお勧めします。
- Windows AIK ドキュメントを読みます。
- Windows リモートインストールサービスが Windows サーバーで実行されていることを確認します。Windows 展開サービスのスナップインドキュメントを読みます。
- ワークステーション用の windows.zip ファイルまたは最新の Tools and Drivers DVD を探します。第 2 章「ドライバパッケージのダウンロード」を参照してください。

### ▼ WM イメージにドライバを追加する

- 1 32 ビットまたは 64 ビット Windows インストールの該当するすべてのファイルを、Tools and Drivers DVD のバージョンフォルダからネットワーク共有の該当するフォルダ構造にコピーします。
  - a. 該当するバージョンファイルを特定します。  
次に示すのは、Tools and Drivers DVD の例です。この例では、cdromdrive は Tools and Drivers DVD が挿入されている CD/DVD ドライブのドライブ文字です。

## Tools and Drivers DVD の Windows Vista Ultimate 32 ビットファイル

```
cdromdrive:\drivers\windows\Chipset
    ... \SAS\driver\32bit
    ... \sata\32bit
    ... \TPM\driver\32bit
    ... \audio\Vista
    ... \nic\pro1000\win32
```

## Tools and Drivers DVD の Windows Vista Ultimate 64 ビットファイル

```
cdromdrive:\drivers\windows\Chipset
    ... \SAS\driver\64bit
    ... \sata\64bit
    ... \TPM\driver\64bit
    ... \audio\vista64
    ... \nic\pro1000\winx64
```

## Tools and Drivers DVD の Windows Server 2008 32 ビットファイル

```
cdromdrive:\drivers\windows\Chipset
    ... \SAS\driver\32bit
    ... \sata\32bit
    ... \TPM\driver\32bit
    ... \nic\pro1000\win32
```

## Tools and Drivers DVD の Windows Server 2008 64 ビットファイル

```
cdromdrive:\drivers\windows\Chipset
    ... \SAS\driver\64bit
    ... \sata\64bit
    ... \TPM\driver\64bit
    ... \nic\pro1000\winx64
```

- b.** 手順 **a** で特定したファイルを、バージョンフォルダからネットワーク共有の該当するフォルダ構造にコピーします。

次の例では、\\yourshare\share はネットワークで設定した共有パスで、DriverPack\x64 は 64 ビット Windows 用、および DriverPack\x86 は 32 ビット Windows 用です。すべてのファイルは、x64 または x86 フォルダまたはコンポーネントサブフォルダの直下に配置します (Tools and Drivers DVD の場合、バージョンサブフォルダはありません)。次の例を参照してください。

## Windows Vista Ultimate 32 ビットの WIM フォルダ構造

```
\\yourshare\share\DriverPack\x86\Chipset
    ... \SAS
    ... \sata
    ... \TPM
    ... \audio
    ... \nic
```

### Windows Vista Ultimate 64 ビットの WIM フォルダ構造

```
\\yourshare\share\DriverPack\x64\Chipset
... \SAS
... \sata
... \TPM
... \audio
... \nic
```

### Windows Server 2008 32 ビットの WIM フォルダ構造

```
\\yourshare\share\DriverPack\x86\Chipset
... \SAS
... \sata
... \TPM
... \nic
```

### Windows Server 2008 64 ビットの WIM フォルダ構造

```
\\yourshare\share\DriverPack\x64\Chipset
... \SAS
... \sata
... \TPM
... \nic
```

- 2 サービスイメージを選択して、イメージを更新およびエクスポートします。
  - a. 「スタート」、「管理ツール」、「**Windows 展開サービス**」の順にクリックします。
  - b. サービスを提供するイメージを見つけます。イメージを右クリックして、「無効にする」をクリックします。
  - c. イメージを右クリックして、「イメージのエクスポート」をクリックします。ウィザードを使用して、選択した場所にイメージをエクスポートします。

- 3 上の手順でエクスポートした **Windows** イメージをマウントします。次に例を示します。

```
imagex /mountrw C:\windows_distribution\sources\install.wim 1 C:\win_mount
```

Install.wim ファイル内の最初の Windows イメージが C:\win\_mount にマウントされます。

- 4 **Windows システムイメージマネージャー (Windows System Image Manager、Windows SIM。Windows AIK で使用可能)** を使用して、インストールするデバイスドライバのパ

スが含まれる応答ファイルを作成します。**Windows SIM** アプリケーションの起動の詳細については、**Windows** 自動インストールキットの **Microsoft** ドキュメントを参照してください。

- 5 Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントを、offlineServicing パス内の応答ファイルに追加します。
- 6 応答ファイルの Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE ノードを展開します。DevicePaths を右クリックし、「新しい PathAndCredentials の挿入」を選択します。  
新しい PathAndCredentials リスト項目が表示されます。
- 7 Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントで、ネットワーク共有上の **DriverPack** フォルダのアーキテクチャーフォルダのパスと、ネットワーク共有へのアクセスに使用される資格を指定します。

たとえば、64 ビットイメージのパスと資格は次のようになります。

```
<Path>\\yourshare\share\DriverPack\x64</Path>
  <Credentials>
    <Domain>MyDomain</Domain>
    <Username>MyUserName</Username>
    <Password>MyPassword</Password>
  </Credentials>
```

- 8 応答ファイルを保存し、**Windows SIM** を終了します。応答ファイルは、次のサンプルと同様にしてください。このサンプルでは、64 ビットのアーキテクチャーを想定しています (processorArchitecture コンポーネントの ID パラメータでは、サポートされる値は 32 ビット **Windows** の場合は x86 で、64 ビット **Windows** の場合は amd64 です)。

```
<?xml version="1.0" ?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3" xmlns:wcm=
"http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State">
  <settings pass="offlineServicing">
    <component name="Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE"
processorArchitecture="amd64" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
language="neutral" versionScope="nonSxS">
      <DriverPaths>
        <PathAndCredentials wcm:keyValue="1">
          <Path>\\yourshare\share\DriverPack\x64</Path>
          <Credentials>
            <Domain>MyDomain</Domain>
            <Username>MyUserName</Username>
            <Password>MyPassword</Password>
          </Credentials>
        </PathAndCredentials>
      </DriverPaths>
```

```
</component>
</settings>
</unattend>
```

- 9 パッケージマネージャーを使用して、自動インストールの応答ファイルを、マウントされた **Windows** イメージに適用します。ログファイルを作成する場所を指定します。パッケージマネージャーの使用方法については、**Microsoft Windows AIK** のドキュメントを参照してください。次に例を示します。

```
pkgmgr /o:"C:\wim_mount\;C:\wim_mount\Windows" /n:"C:\unattend.xml"
/l:"C:\pkgmgrlogs\logfile.txt"
```

応答ファイルのパスで参照される .inf ファイルが Windows イメージファイルに追加されます。ログファイルは、C:\Pkgmgrlogs\ディレクトリに作成されます。

- 10 マウントされた **Windows** イメージ内の %WINDIR%\Inf\ ディレクトリの内容を見直して、.inf ファイルがインストールされたことを確認します。**Windows** イメージに追加されるドライバの名前は、oem\*.inf になります。これは、コンピュータに追加される新しいドライバの名前を確実に一意にするためです。たとえば、MyDriver1.inf ファイルと MyDriver2.inf ファイルの名前は、それぞれ oem0.inf および oem1.inf となります。
- 11 .wim ファイルのマウントを解除し、変更内容をコミットします。たとえば、次のように入力します。

```
imagex /unmount /commit C:\wim_mount
```

- 12 次の手順に従って、サービスイメージを置き換え、更新されたイメージを有効にします。
- Windows** 展開サービスのスナップインが実行されていない場合は、「スタート」、「管理ツール」、「**Windows** 展開サービス」の順にクリックします。
  - サービスを提供するイメージを見つけます。イメージを右クリックして、「イメージの置換」をクリックします。ウィザードを使用して、サービスイメージを、更新された **Windows** イメージに置き換えます。
  - サービスイメージを右クリックして、「有効にする」をクリックします。

サービスイメージが使用可能になり、すべてのワークステーション固有ドライバがイメージに追加されます。

# 索引

---

## I

Intel ASF、説明、46

## R

RAID のブートディスクに関する考慮事項、10

## W

WDS WIM イメージファイル、必要なドライバ、47-48

WIM イメージファイルへのドライバの追加、48-52

Windows Server 2003 のインストール、25-31

Windows Server 2008、インストール、33-37

Windows Server 2008 のインストール、33-37

Windows Vista Ultimate、インストール、25-31

Windows、サポートされているバージョン、11

Windows のインストールの準備、9

Windows メディアからのインストール、33-37

Windows を使用したフロッピーディスクの作成、16-18

## い

インストールの選択、10

## お

オペレーティングシステムのインストールガイドライン、10

外部ストレージドライバの準備、15-16

概要、9

手順、25-31, 33-37

要件、25, 33

オペレーティングシステムのインストールのガイドライン、10

オペレーティングシステムのインストール要件、25, 33

オペレーティングシステムをインストールする手順、25-31, 33-37

## か

外部ストレージドライバ

Windows を使用したフロッピーディスクの作成、16-18

インストールの準備、15-16

## さ

サーバー固有のドライバ、更新、39-43

サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード、13-14

サポートされているWindows のバージョン、11

と

ドライバ

サーバー固有のドライバの更新, 39-43

ダウンロードサイト, 13-14

ダウンロード手順, 13-14

ふ

ブートディスク、RAID に含める際の考慮事  
項, 10